

第 20 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要

I. 開催日時および場所

日時：2021 年 2 月 24 日（火）10:00～12:00

場所：Webex によるオンライン会議

II. 委員

別紙名簿の通り

III. 資料

- 議事次第
- 参加者名簿
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（2021/2/24 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 19 回）議事概要
- 資料 3 令和 2 年度双葉郡教育復興ビジョン取組実施報告
- 資料 4 広報誌「ふたばの教育」Vol. 11 2021 年春号
- 資料 5 川内村立川内小中学園教育基本計画
- 資料 6-1 現状課題・対応（浪江町）
- 資料 6-2 請戸小学校_震災遺構整備概要
- 資料 6-3 請戸小紹介
- 資料 7 富岡町の現状と課題
- 資料 8 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会資料（ふたば未来学園高校）
- 資料 9 令和 3 年度双葉郡教育復興ビジョン推進体制・委員会等の構成、取組一覧（案）
- 資料 10 令和 3 年度双葉郡教育復興ビジョン取組実施計画（案）
- 資料 11 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第二期
- 資料 12 【文部科学省資料】避難指示区域等内における魅力ある教育環境づくりに向けて

IV. 議事内容

1. 開会

1) 開会挨拶（秋元教育長 川内村教育長）

- 今年度はコロナ禍により押しつぶされそうな圧迫感の中での 1 年間だった。そんな中でも何か新しい時代への変化の兆しのようなものを感じている。あの日から 10 年になるが、この間 8 人の教育長はそれぞれの教育現場に日常を取り戻すために、懸命にそして手探りの状態で走ってきたが、新たな課題も浮かび上がっている。
- あの震災を知らない、覚えていない子どもが圧倒的に多くなってきており、今までの「ふるさと学習」の在り方をもう一度見直す必要がある。また、子どもたちは増加傾向にあるものの、「極」がつく少人数であり、その子どもたちの背景はかなり多様化している。8 人の教育長でこのような状況を共有して、課題に対してポジティブに対応していきたい。

2) 自己紹介

2. 前回（第 19 回）議事概要確認

- （全会）承認

3. 議事

1) 今年度の各取組実施状況について

- 小学校絆づくり交流会と中高生交流会、教職員による先進地域の視察等中止等、新型コロナウイルスに大きな影響を受けたが、第 7 回ふるさと創造学サミットはオンラインで開催できた。「オンラインの方が発表は集中してできたが、双方向のやりとりは対面の方がいい」という意見が多かった。YouTube でのライブ配信も初めて実施。全体企画「ミライ・ふたば～20 年後の町・村・学校・自分を想像してみよう！」では、子どもたちが 20 年後の未来を想像して新聞記事スタイルにまとめ、共有し合った。一部作品が福島民報で連載された。
- ふるさと創造学教員研修会、教職員による子供未来会議もオンラインで開催。例年以上に多くの先生方に参加いただいた。
- 広報誌では、今年は子どもたちの制作への関わりを深めたいというねらいで、ふたば生徒会連合の生徒のアイデアを取り入れた。
- 生徒会連合は対面活動の機会は一度もなかったが、ビデオ会議等を通して、昨年以上に交流する機会を増やすことができた。子どもたちの中にも双葉郡の一員として一緒に活動しているという意識が根付いてきているようだ。

（担当教育長より）

- （葛尾村）ビデオ会議では、子どもたちが楽しそうに充実した会議を進めていたのが印象的。子どもたち自身が双葉郡の持つ素晴らしさや課題に目を向け、それを共有し、自分の学校あるいは学校を超えて、自分たちに何ができるかを考え、取り組んでいけるふたば生徒会連合でありたい。また、ふるさと創造学もそういった学びになれば素晴らしい。
- （双葉町）ICT 活用は双葉郡の大きな強み、これからどんどんいろいろな形で推進できればと思う。定期的な会合だけでなく、普段からぱっとどこかと繋がることができるようになるのが理想。遠隔授業も今後推進できればよい。アイデアがあればお聞かせいただきたい。

2) 各町村教育委員会の現状と課題

- （川内村）平成 24 年 4 月学校再開時、子どもたちは 38 名、全体の 16%。今年の 1 月現在、子どもたちは 113 名、全体の 63%、うち 52 名は震災後に転入、また 30 名はひとり親世帯。小・中学生は 75 名。何らかの支援が必要な子どもたちの割合が多くなっており、復興推進加配は大変ありがたい。本年 4 月に義務教育学校が開校予定。学校と家庭と地域がそれぞれの役割を認識し、それを実践しつつ、かつ連携をしていく、そんな学校を目指していきたい。
- （浪江町）小・中学校は新年度にようやく 30 名を超すところ、わずかずつ増えてきている。新設校 3 年目の今年度は、新たに町に来られたご家庭も多く、浪江町が新たなふるさとという思いを育んでいきたい。少人数のよさを生かして、ICT 等の活用も含め、多様な個性への対応

に努めている。請戸小学校を震災遺構として整備している。伝承館とともに請戸小学校を訪れていただき、震災記憶の伝承、防災減災意識の向上につなげていただきたい。

- （葛尾村）村内での学校再開からまもなく丸3年。幼稚園5名、小学校8名、中学校5名の合計18名。帰村者は三百数十名で、約30%前後の帰村率。少人数の良さを生かして、幼・小・中学校が連携して教育活動を行っている。ICTも充実。村外のいろいろな方々とのつながりをつくったり、人の財産を増やして少人数の課題を解決していきたい。
- （双葉町）全町避難で町民が一人も帰町できていないのは双葉町だけだが、令和4年春の一部避難指示の解除に向けて、インフラ整備を進めている。今後の町のまちづくり計画の中にかに学校教育を位置づけていくかが一番の課題。すでに帰町・帰村して学校を再開している皆さんと色々な課題等を情報交換しながら、新しい学校、新しい教育行政に向けて進んでいきたい。
- （大熊町）令和3年度は、4月から中学校を、現在の会津の小学校校舎に移転、令和4年4月には義務教育学校を立ち上げる予定。令和5年には、その義務教育学校を移転、大熊町で学校を再開する予定。現在は、幼稚園5名、小学校9名、中学校3名の17名。先日の就学相談会では、大熊の学校に約6名が戻るという話があったと聞いている。幼・小・中一貫教育、極少人数による個別最適化授業の展開、ICT教育の充実を進めていく。
- （檜葉町）小・中が中学校の校舎で合同で授業を行っている状況だが、令和4年度から檜葉南小学校で檜葉小学校（北・南を統合）としてスタート予定。檜葉北小学校跡地には、令和6年度を目指し支援学校が開校予定。現在は、小学校100名、中学校39名、0から5歳で107名。幼・小・中連携した切れ目のない学びを目指している。個別指導が必要な子どもも非常に増えてきており、引き続き先生方の加配をお願いしたい。
- （広野町）児童生徒数、小学校155名、中学校68名で全体の約8割。今年度、教育ビジョンをつくり、これに沿って教育の実践を進めている。また、地域の教育資源を生かした教材化を図る目的もあり、今年度、魅力化推進協議会も立ち上げた。来年度アカデミーの中学生が19名、入学してくる。学校と地域がいかに連携していくかが課題。ふたば未来の指導を受けながら連携を進めていきたい。

3) ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告

- 開校6年目。スーパーグローバルハイスクールの指定が昨年度末で終了。今年度からは地域との協働による高等学校教育改革推進事業のグローバル型（全国で4校）の指定を受けた。今年度の取組は「原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバル・リーダーの育成」。県、8町村を中心とした広域のコンソーシアムを構築して教育と地域復興の相乗効果を作り出していきたい。
- 高校での探求の学びは、1年次に地域課題解決探求の導入、2、3年次で未来創造探求に取り組む流れ。常時200くらいのプロジェクトが同時進行で実践されている。
- 中学校においては、哲学・熟議の学びが生徒たちに好評。リーダー学取組では、本物のリーダー、変革者を招き、その志や生き方を学びながら「リーダーとは何ぞや」ということも深めていく。非常に貴重な機会であり、学びも多い。
- 今後の課題。さまざまな形で8町村の皆さんに関わっていただき、生徒に還元していただいて

いるが、そういう連携の状況が住民の方々に可視化されていないので、方策を考えたい。連携先の情報とネットワーク不足も課題。また、学びと地域復興の相乗効果を創出しつつ、地域の皆さんの全体のウェルビーイング実現にどう貢献していくか、連携について考えていきたい。

4. 令和3年度推進体制・行事計画案

- これまでの取組の成果や各町村の状況の変化等を考慮しながら、各委員会の活動内容等についても必要に応じて改善しながら、担当教育長、実行委員の先生方と相談しながら進めていく。
- 双葉郡の取組を外部へ発信していく点についても効果的な進め方を引き続き検討する。
- サミット等の開催場所は、双葉郡での開催を希望する声が多い。今後、検討しながら状況に合った動きをしていく。

5. 第三期推進計画書の策定について

- 令和4～6年度の3ヶ年計画となる推進計画書第三期については、これまで7年間の実態を調査し、その結果に基づいてスクラップ・アンド・リメイク、あるいは新たなビルドも検討し必要があると考える。
- どんな課題があるのか、新しい視点での連携・協力をどのような形で進めていくことができるのかを含め、まずは8人の教育長で検討を重ね、次回の協議会で案を示し、年度内の策定を目指したい。
- (委員意見)
 - 「双葉郡から新しい教育を創り出し、県内・全国へ波及させる」のはビジョンの方針の一つ。さまざまな成果と課題を全国に発信する場の検討をぜひ具体化してほしい。
 - 双葉郡の取組は全国的にも非常に先進的だが、地域と連携しながら人材育成を行っている市町村は多い。全国に発信するだけでなく、全国の取組も学べるような場をつくることできれば、双葉郡の教育ビジョン、教育の方向性もまた次の新たなフェーズに行けるのではないかと。

6. その他

(1) 委員からの情報共有

- (塩見審議官 文部科学省初等中等教育局) 今後も引き続き就学支援、教職員加配、スクールカウンセラー等の配置を行っていく。ふるさと創造学等の教育復興推進事業も引き続き応援。今後も復興庁や福島県教育委員会と連携し、皆様のご要望を伺いながら、教育の復興に向けた支援を行っていききたい。

(2) 今後の協議会開催予定

- 次年度も2回の開催を予定。(時期については、推進計画書の作成、その進捗状況に合わせて検討・調整を進める)

4. 閉会

以上